

第2回 観峰館オンライン講座

観峰館所蔵品を鑑賞しよう (1)

2021年3月31日（水）10時30分～

講師；寺前公基（観峰館学芸員）

◇講座の目的◇

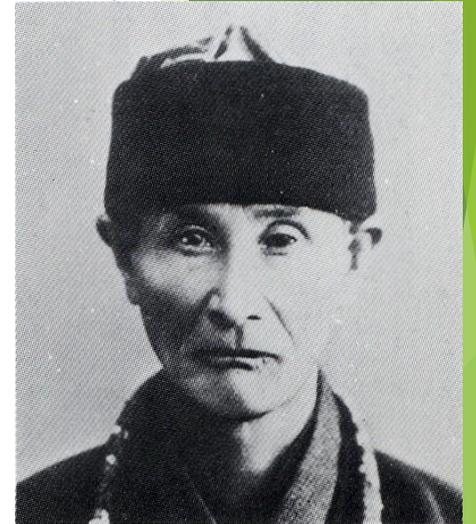
(前回の講座に引き続き)

- ・ 作品に書かれた漢詩を読む。
- ・ 漢詩の構成、意味を理解する。
- ・ 作品作りにおける、書家の意図を探る。

中林梧竹（なかばやし ごちく）とは？

中林梧竹（1827～1913）は、名は隆経、字は子達といい、号の梧竹で知られています。肥前小城（現在の佐賀県小城市）の鍋島藩に仕える名家に生まれました。長崎で中国の書家に書を学び、中国に留学して、多くの拓本を持ち帰った。

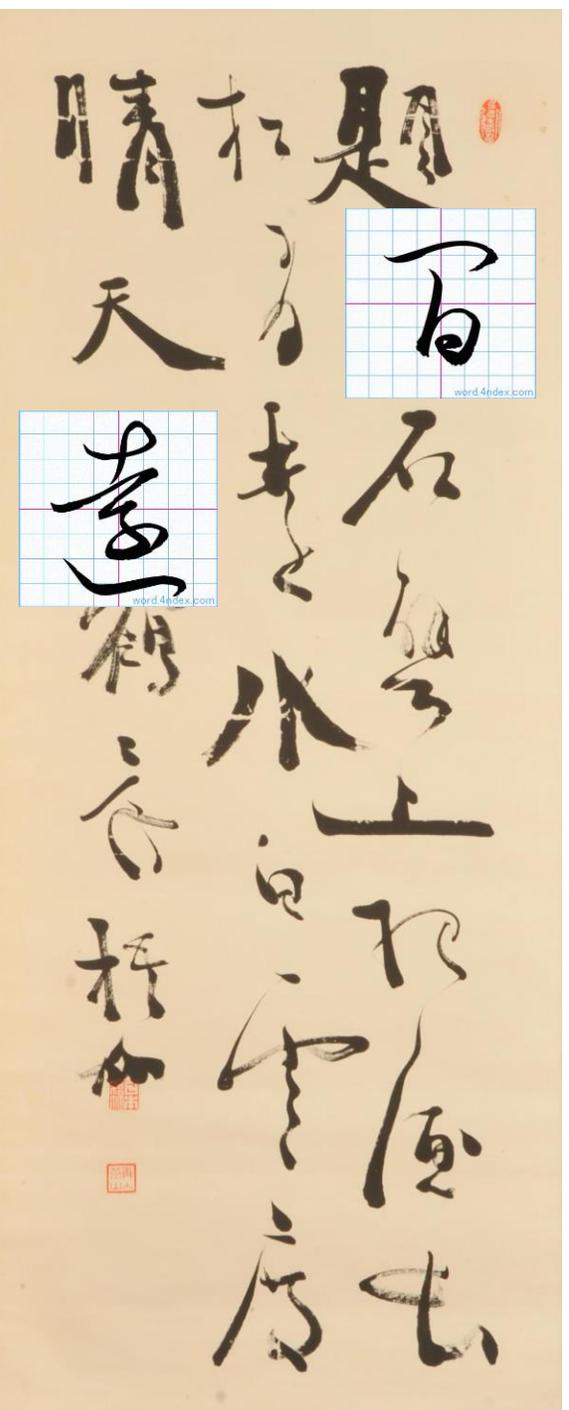
梧竹の書は、強く斬り込む起筆と力強い筆使いに特徴があります。「名刀の切れ味」などと言われることもあります。



それでは、
実際の作品を
見てみましょう！

☆今日の鑑賞作品☆

中林梧竹 行草書五言詩軸



【釈文（しゃくもん）】

題詩石壁上把酒長

松間遠水白雲度

晴天孤鶴還

梧竹

題詩石壁上把酒長
松間遠水白雲度
晴天孤鶴還

↓
① 文字数を数える

② 二十文字を分ける。



題詩石壁上 (各5文字)

把酒長松間 ←

遠水白雲度 五言絶句

晴天孤鶴還

題詩石壁上

↓ 詩を石壁の上に題し

把酒長松間

↓ 酒を長松の間に把る

(と)

遠水白雲度

↓ 遠水に白雲度り、

(渡)

晴天孤鶴還

↓ 晴天に孤鶴還る。

漢詩の意味

（自然の中にある）石の
壁に（友人より）与えら
れた題の詩を書き、高く
そびえる松林の中で、酒
の盃をとって飲む。

遠くの水辺には白い雲
がかかっており、晴れわ
たる空に、一羽の鶴が
還っていく。

鑑賞のポイント

漢詩の場面を思い浮かべてみましょう。

☆キーワード☆

詩 酒

↓ 自由な時間

松 白雲 晴天 鶴

↓ 自然の風景

漢詩の内容

詩の中の人物

酒を飲む、悠々自適な生活を
しています。人物の周辺には、
詩を書ける程の大きな石や、
松林、遠くに流れる水など、
自然にあふれています。その
中で、一羽の鶴が晴れわたる
空に飛び立っていく、美しい
情景を詠んでいます。



さらに一歩ふみこんで
みましよう！

題詩石壁上把酒長 (8文字)

松間遠水白雲度 (7文字)

晴天孤鶴還 (5文字)

こういうパターンもあるはず

題詩石壁上把酒長 (8文字)

松間遠水白雲度晴 (8文字)

天孤鶴還 (4文字)

Q、ここで質問です。

なぜ書家は最後の行を5文字にしたのでしょうか？

改めて考えてみましょう！

題詩石壁上把酒長 (8文字)

松間遠水白雲度 (7文字)

晴天孤鶴還 (5文字)

← 5文字ごとの漢詩なので、
3行目を5文字とするのは、
詩の構成をふまえてのもの。

← 漢詩の中で、第4句を最も強
調したかったのでは？

晴天孤鶴還

(晴天に一匹の鶴が飛び立っていく)

←

漢詩の場面の中で、最も印象的な部分で、漢詩を読む人、作品を見る人がイメージしやすい場面でもある。

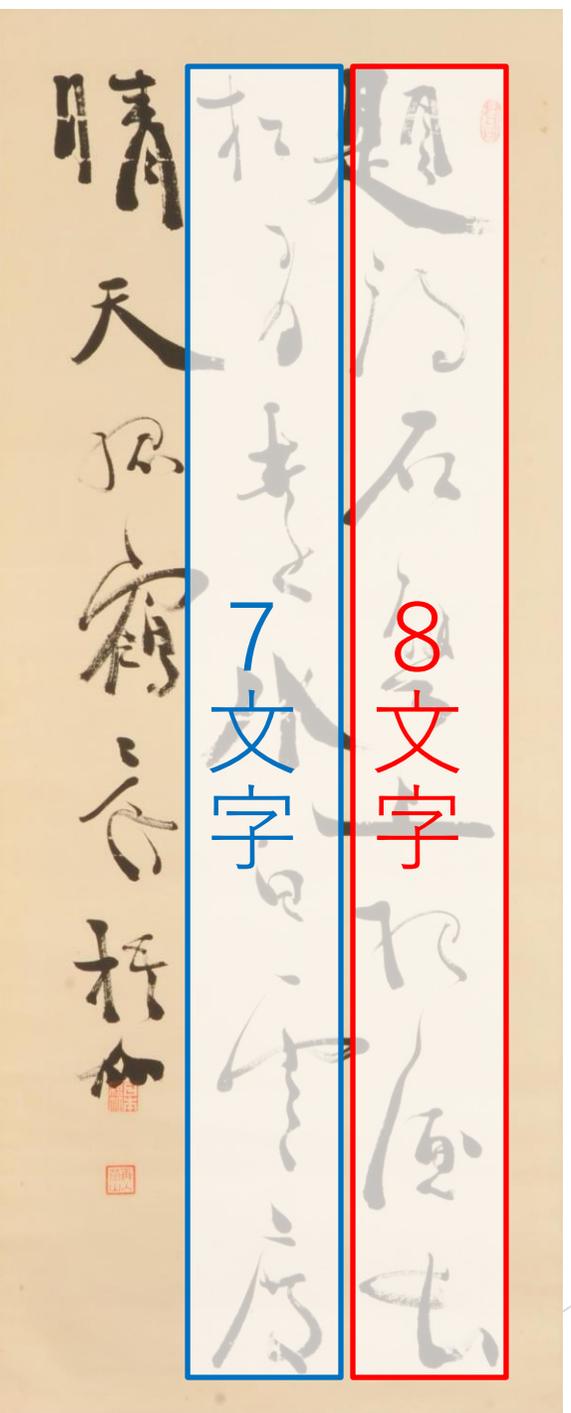
←

一羽の鶴が晴れわたる空に飛び立つ情景の美しさを共感してもらいたい。

←

「晴」と「天」の文字を分けたくなかったため、また、晴天という文字を行の冒頭に配置したかったため、2行目を7文字で改行した。

改めて作品を見てみましょう！



文字数が異なるにもかかわらず、
文字の配置に違和感がない。

それぞれの行の文字が重なり合わ
ずに配置されている。

中林梧竹の上手さー！

今日の講座のおさらい

- ・ **漢詩の文字数に注目**

○○文字 → ○句に分ける

→ 作品作りのヒント

- ・ **詩の中の文字から、詩の場面を想像してみる。**

- ・ **文字の配置から、書家の意図が探れる場合がある。**

ありがとうございました。

次回の講座も、ぜひ
ご参加ください。

観峰館